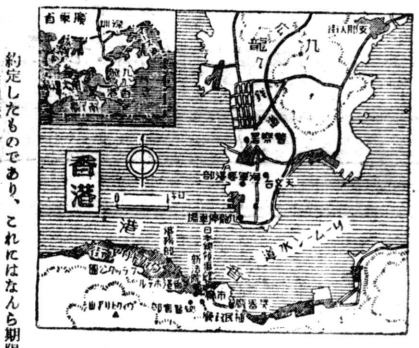
ブラジル朝日新聞

（聖日伯新聞）
伯國聖市マエストロカルチン街一一〇九
ブラジル朝日新聞社
本紙定價年六十ミル
外國郵稅共百廿ミル

香港ルートの禁絶解き
英側飽くまで援蔣行爲
わが方、斷乎非行に猛省促す

（東京十九日同盟）英國がビルマ・ルートの再開後香港領域からの援蔣物資輸送につきいかなる措置をとるかといふことは内外の注目をひく當面の問題となつてゐるが、香港より支那向け軍需資材の輸出はビルマ・ルートの閉鎖と同時に日英間の取極めにより禁絶されて來たのであるが、英國側はビルマ・ルート禁絶に關する日英取極めの期限滿了と同時に香港領域よりの禁絶も解除されるものと解してゐることが明瞭となつたので、岡崎香港總領事は十六日香港政府に對し

かゝる見解は明かに日英取極めを曲解するものであつて、香港に關してはビルマ・ルート禁絶交渉當時實施してゐた軍需品の禁輸に更にビルマ・ルート同樣の種目を追加することを約定したものであり、これにはなんら期限を附されてないからビルマ・ルートは再開されても香港の禁絶は無期限に有効である



趣旨の帝國政府の見解を嚴重申し入れるところあつた、これに對し香港政廳側では飽くまで右のごとき不當な見解を固執してゐるので、岡崎總領事は極力その申入れを促した

輸送力極めて微々
結局は運賃倒れか
香港ルートの裏を覗く

【香港十九日同盟】香港經由援蔣物資輸送については今後の英國側の態度が注目されるといふもに、右ルートの輸送能力そのものが問題となつてゐるが、當地における各方面の情報を綜合するに右ルートの近況は左の通りである

現在香港より奥地への直援輸送路は沙魚涌を經由する一線に限られてゐる、このルートは英領九龍半島の東岸大埔より初まり、貨物は汽船またはジャンクでこゝから大鳳灣、沙魚涌に運ばれ陸路淡水を經て惠陽にいたる、この間の輸送は多く人夫または馬により、惠陽からは東江の水路を利用して河源を經て老隆に運ばれさらに陸路新豐を經て韶關に連絡するもので、沙魚涌、韶關間は六日半を要する老隆からはさらに東江をさかのぼつて江西にはいり、また梅江に沿つて粵東各地と連絡し、韶關よりは粵漢線で河南經由奥地に送られる最近香港、韶關間の貨物輸送は激增の傾向にあるといはれるが、韶關當局はこのルートの施設改善をはかりかつ物資輸送に輸送業者の協力を得るべく慫慂してゐるが、沿道の治安狀態、輸送費の騰高からその將來の發展は疑問視されてゐる、即ち沙魚涌、韶關間の貨物一トンの運賃は法幣五十元そのうち三十元はトラック賃、二十元は船運および人夫賃銀にあたるが、車輛の不足、ガソリンの高騰からトラック輸送費は激增の一途を辿り、從つて輸送物資の値段も割高にのぼり韶關より奥地に貨物を輸送して重慶抗戰力補給の一助にたらしめんとするごとき

南支方面最高指揮官
安藤大將病氣辭任
後任に後宮中將轉出

【東京十九日同盟】南支方面最高指揮官更迭は十九日大本營陸軍部から發表、安藤大將（當時中將）がパイアス灣無血上陸に成功し、廣東攻略後病氣のため辭任したので、その後任に後宮中將の轉出を見ることになつた、安藤大將は廣東周邊に蝟集して來た中央軍に徹底的打擊を與へ、ある時は英支國境九龍半島方面において驍強なる香港援蔣ルートの遮斷を敢行し、海南島を攻略し、また北海方面に上陸して南寧龍州を占領して佛印援蔣ルートを遮斷し、さらに寡兵をもつて南寧方面賓陽平地に進出して來た敵の大軍を包圍殲滅して稀有の戰果をあげるなど滿二ケ年にわたつて炎熱の地に赫々たる偉勳を樹てた後宮中將は京都府出身、本年五十七才、陸士第十七期歩兵科卒業の陸相東條英機中將と同期、陸大卒業後參謀本部々長、昭和十年八月人事局長、南支方面の各地を巡視し、十二月朝鮮軍司令官に轉じ現在に至つた

輝く武勲を殘し
歸還の途へ

【廣東十九日同盟】南支の各戰線に輝く幾多の武勲を殘して南支方面陸軍最高指揮官安藤大將は十一日廣東に着任し後宮新司令官を迎へ、十二日朝鮮軍司令官に轉じ現在に至つた後宮中將との間に事務引繼を終へ、十二日廣東市長その他支那側要人多數の見送りをうけ晴れの歸還の途に着いた

トラック六十臺
物資滿載し出發
二千台はラシオに待機

【香港十八日同盟】わが方の警告を無視し世界注視のうちにビルマ・ルートは遂に十八日再開された、ラシオ發のUP電によれば期限滿了の十八日午前零時一分、重慶側關係者立會の下に武器をはじめ各種物資を滿載した護衛付の六十台のトラック群がまづ昆明に向け出發した、なほこれに續いて數隊のトラック群約二千台が今ラシオに待機中であるが、現在ラシオには約十万トン、ラングーンには約五十万トンの援蔣物資が集積されてゐると

わが海鷲長驅し
ビルマ・ルートを痛擊
橋梁を粉碎多大の戰果

【○○基地十八日同盟】南支、ビルマ・ルートの重要橋梁に猛爆を敢行し、小癪にも再開した同輸送路に對し再開撃を與へたと發表した

【ニューヨーク十八日米UP】米國政府はビルマ・ルート再開に伴ふ極東新事態を重視してゐるが、一般に日本は直ちに英國と事を構へることは欲してゐないと見てをり、消息通筋は日本は日ソ不可侵條約締結交渉の結果判明を待つてその態度を決定するのではないかとしてゐる

日英衝突を憂慮
米政府、成行き重視

【○○十八日同盟】敵第三戰隊報道部は十八日海軍航空部隊は長驅雲南の奥地に進撃し、第一日まづ甚大なる損害と脅威とを與へ、また他の精鋭部隊は蒙自西方約十キロの個舊錫精鍊工場を猛爆、潰滅的打撃を與へたと發表した

敵第三區に
輝く我戰果

【○○十八日同盟】敵第三戰區に對するわが秋季大攻勢の三日より十八日まで綜合戰果左のごとし

敵遺棄死體六一一九、捕虜三五一、機關銃七九、小銃七八九、其他多數

ルート開放の前夜
英米兩大使を招待
蔣、輸送保護を懇請

【香港十八日同盟】確實なる情報によれば、重慶側では親米工作に熱中するとともにビルマ・ルートの再開を機として對英關係の緩を房すべく躍起となつてゐるが、蔣介石はビルマ・ルート開放の前夜たる十七日よりカー英國、ジョンソン米國の兩大使を晩餐に招待、英米兩國の對支援助特にビルマ・ルート開放後の物資輸送保護の問題に關して援助を懇請した、またビルマ・ルート輸送保護に關しては雲南とは別個に中央の指揮下にある護路隊を組織各地に配置すべく準備中で、高射砲その他防空施設の整備などに狂奔してゐる

クレヂットを供與
米支交渉を開始
注目さる宋子文の動靜

【ワシントン十七日同盟】ワシントンにある宋子文の動靜が注目されてゐたが十七日ジョーンズ融資局長は支那にクレヂットを供與すべく宋と交渉を開始した旨語つた

【ワシントン十七日同盟】滇緬公路再開と共に目下ワシントンにある宋子文の動靜乎既定方針に向つて邁進すべき萬全の策を講じてをり國側香港ルートについても禁絶機續の義務なしとの見解をとつてゐるが、わが方は去る七月十七日の有田・クレーギー取極めにおける英國側の言明により嚴重監視してゐる

トピック解剖
"ファランジエ"

スペイン政府は歐洲新秩序の胎動に對應すべく内閣を改造したが、特にセラノ・スネルを内相から外相にもつてゆき、内相の職務はフランコ將軍がこれを兼任した點に重大意義があるとして、スペインはもとより世界の注目を惹いてゐる、といふのは、スネルが外相になれば、その對外政策は必ず"ファランジエ"の思想動向に沿ふて進められるだらう、從來よりもさらに數歩を獨伊樞軸に近づけるであらうといふ觀測に基くからである、ファランジエは古代ギリシヤの槍兵隊の稱であり、轉じて軍隊、結社を意味し、またフォリエニルの主唱にかゝる共産制社會をもさしていふが、スペインにおけるファランジエはむしろ國家社會主義的結社であつて、ドイツのナチオナル・ゾチアリズム、イタリアのファツシズムとその動向を等しくするもの、スネルは實にその黨首であつた、故に彼が外相に就任した以上、スペインの對外政策は、獨伊樞軸の線に沿ふて動くことともはや疑ひなく、たゞ具體的にいかなる對外交を實施するかゞ今後に殘された問題であり、歐洲の新舊兩秩序陣營の勢力均衡に至大の影響を與ふることとなるのである、スペイン各紙の論調は殆ど擧げてこの見解を妥當と認め、支持するを惜しんでゐないやうだ

フランス、ユダヤ族を閉め出す

フランス政府はユダヤ人に關する法令を發布してこれが取締りに乘り出した事は既述の通りである、今その内容を檢るに第一條においてはユダヤ人を定義して、曾祖父の時代に遡つてセミ族に屬する者、祖父がこの種族から出た者と定めてゐるから、頗る廣範圍までわたると見なければならぬ、第二條ではユダヤ人の選び得ない職業および地位を定め、元首の地位につくことを許されず、政府閣員たることを得ず、國家樞議員、名譽職、最高法官たり得ざるものと定めたほか、さらに交通機關の建設に從事することを得ず、財務監督官、海軍士官、外務官吏、各省次官、局課長、市長、助役、警察署長、植民地官吏、支配人、裁判官、教授、士官等々の職および地位に就く事を得ずと定め、第三條においては今次大戰において戰功あつた者を除きユダヤ人の官公職にあることを許さざる旨を規定し、第四條において官公職にあるユダヤ人の選び方を規定し、第四條においてはさらに自由職業についてはユダヤ人に許された職業に對する租稅を定めるなど全文第十條にわたり峻烈なる制壓を加え、殆どユダヤ人をして窒息の止むなきに至らしめんとしてゐる、特にユダヤ人が國内各地に散在するを欲せず、つとめて一定地域に集團するか海外に退避すべきことを希求してゐる點、この法令を通じ再生フランスの動向が窺はれて面白い、フランスは國をあやまつたユダヤ人を徹底的に閉め出さんとしてゐる

阿部大使に
歸朝命令

【南京十九日同盟】日支新條約締結の現地交渉妥結後、南京にあつた阿部大使は政府の歸朝命令に接し、廿三日南京出發東京に向ふことゝなつた

四ケ國會議
ソ聯紙取消す

【モスクワ十八日米UP】タス通信は去る十六日報知新聞所報の日獨伊ソ四國會議開催を否定、かゝる事實はない旨發表した

吳鐵城
バタビヤへ

【バタビア十九日同盟】蔣政權海外部長吳鐵城は十八日マニラより當地に到着した、當分滯在するものと見られてゐる

わが濟經使節に應へ
佛印側も代表決定
一兩日中に正式顔合せ

【ハノイ東朝特電十九日同盟】アリゾナ丸で佛印に向ひつゝある松宮大使以下わが經濟使節團一行は廿日ハイフォンに到着の豫定であるが、これに應へべく佛印側でも日佛印經濟交渉代表者の顔觸れを十七日左のごとく發表した

▲委員長財務長官クーザン
▲委員總督府經濟部長マルチー、總督府鑛山局長デルゾー、移關監察官ルクートルー、ハノイ大學法學部教授カールランク、印度支那銀行軍役シャンボウ▲隨員總督府官房マルタン、サイゴン水道電氣會社々長フィリユゾー

なほ兩國代表の正式顔合せは廿一日に行はれる

隅田監視團長
新任披露と顔つなぎ
佛印首腦を招待

【ハノイ十八日同盟】佛印監視委員長隅田少將は十八日午後八時メトロポール・ホテルに佛印側デルサル總務長官、（ドクー總督旅行不在のため總督代理）マンドバ内務局長、マルチー經濟局長、マルマ軍司令官など約十五名を招待、新任披露を兼ねて日本佛印交歡の晩餐會を開催した、日本側西村、寺岡兩部隊長、蓑田總領事など十五名出席盛大であつた

蘭印石油買付け
苦心の末成功か
米側報道の日蘭會商

【ニューヨーク十八日獨TO】紐育タイムスはその出所を明かにしてゐないが、日本側が蘭印よりの石油大量買付けに成功した旨大々的に報道してゐる、同紙の所報によると目下バタビヤに滯留中の日本の蘭印特派使節一行は蘭印側との交渉によつて、日本が本年上半期に使用せる全量の四割三五一、機關銃七九、小銃

尹德榮氏

【京城十九日同盟】中樞院副議長、貴族院議員從二位勳一等子爵尹德榮氏は病氣療養中九日急性肺炎を併發、十八日午後八時五十分逝去した、享年六十、尹德榮子爵は李王大妃殿下の伯父に當り日韓合併の陰れた功勞者である

カーザ東山
CASA TOZAN, LIMITADA
São Paulo ..... Rua Florencio de Abreu, 308 - 314 - 318 - 322
C. P. 528 - Tels. 3-1141 3-1142 3-1143 3-1144
Santos ..... Praça Mauá, 25 - C. Postal, 911 - Tel. 2106
Rio de Janeiro ..... Rua São Pedro, 63 - C. P. 3342 - Tel. 23-4031
Lins ..... Av. Voluntario Rosalino Silva, 147 - C. P. 11
Telephone, 240
Marilia ..... Rua 9 de Julho, 1277 Caixa Postal, 74 Tel. 460
P. Prudente ..... Rua Tenente Nicolau Maffei, 36 C. Postal, 17
Telephone, 300
Promissão ..... Rua Julio Prestes, 1057 C. Postal, 16 Tel. 50
Guarantan ..... Estação Guarantan — N. O. B.
Alvares Machado ... Estação Alvares Machado - E. F. S.
東山銀行
CASA BANCARIA TOZAN, LIMITADA.
伯貨定期預金 年六分
SANTOS — S. PAULO — LINS — MARILIA — P. PRUDENTE.

Loja das Machinas
R. Quint Bocayuva, 20
Teleph. 2-1894
São Paulo
現金出納器、タイプライター、計算器、金庫、アルキーボ、裁縫ミシン、其他諸機具多數
▼賣買交換、値段至廉▲

軍・政打つて一丸 議會局運營に全力

前田局長の挨拶——要旨

【東京十九日同盟】大政翼贊會議會局設立の初顔合せ會は十九日午後より衆議院で開會前田局長以下正副部長理事など七十九名出席、前田局長より大要左の如き挨拶があり、午餐を共にした後各部に分れ午後の活動方針並に受持分擔を決定した

前田議會局長挨拶　議會局運營の根本態度は帝國憲法を奉戴し、わが國獨特の立憲政治即ち翼贊議會の新體制の確立に邁進するにあり、殊に現下非常の國際情勢下にあつては國家緊急の要務たる高度國防國家建設のため政黨政派の對立抗爭を排し、議會も政府も軍も眞に一丸となつて大政翼贊の機能を遺憾なく發揮しなければならぬ、帝國議會の本質は立法の府として大政を翼贊し皇運を扶翼し奉るにある、いやしくも議會の權限を縮少したり議會を無視するが如きことは帝國憲法の斷じて翼贊會の一翼として帝國議會と政府との間に立つてその連絡統合の使命を果たし議會運營の圓滑を期しもつて翼贊議會の建設に內面的努力を致すにある、議會局の組織は今や着々進行を見、遠からず成案を見ることならうが、衆議員關係としては庶務、審査並に臨時に選擧制度、調査の四部を設け大政翼贊會に贊成加入した議會人全部を部員として網羅することは勿論廣く天下に良知を求め且つは政府と協力しつゝ眞に官民一體となつて時局克服に前進する覺悟である

企畫局經濟部長 大朝の武內氏

【東京十九日同盟】大政翼贊會企畫局經濟部長には十九日大阪朝日新聞經濟部長武田文彬氏に正式決定した

小說家の岸田氏 文化部長へ

【東京十九日同盟】大政翼贊會文化部長は作家岸田國士氏に交渉中のところ十八日同氏の內諾を得た、なほ組織部長は栃木縣警察部長加藤勇三郎氏に決定し、東亞部副部長は遠山秀三氏のほか目下上海にある軍屬三木亮孝氏に交渉を進めてゐる

獨伊の要求を承認 英との舊交を斷て

希臘最後の土壇場へ

一、對英即時國交斷絕
一、アルバニア國境接壤地帶の對伊割讓
一、エーゲ海岸廻廊地帶の對ブルガリア割讓
一、アルバニアよりサロニカにいたる道路建設權の對伊付與
一、ギリシヤ國內飛行場使用權の對獨伊供與
一、ギオルギオス二世の退位親獨伊樞軸政府樹立

【ニューヨーク十八日同盟】APカイロ電は同地駐在ギリシヤ公使館筋では獨伊兩國がギリシヤに對し對英即時國交斷絕を含む次の六要求を提出した旨洩らしたと報じてゐる

ル大統領攻擊の的 米選擧戰いまや酣

ウイルキー派の攻勢鋭し

【ニューヨーク十八日同盟】大統領選擧接近とともに民主共和兩黨の戰ひは日とゝもに白熱化してゐるが、十八日デビツド・リード前上院議員はメーン州のオーガスタでウイルキー候補應援演說を行ひ、ルーズベルト大統領の政策を痛烈に攻擊した、演說要旨左の通り

日獨伊三國が米國との戰爭を欲してゐないことは日を逐ふて明かになりつゝあるにも拘らず、ルーズベルト大統領は現在米國が平和關係を保持してゐるこれら諸國に對して最も非中立的な言辭を浴びせ事を構へんとしてゐる、ルーズベルト大統領個人の意見はイタリアがフランス侵入を行つた時彼が公然言ひ放つたイタリアはフランスの背に短刀を刺したといふ言葉によく表現されてゐる、かゝる誇張された言動は眞に平和を希望する一國の元首としては絕對に愼しむべきものである

なほ上院議員タフト氏も同日フィラデルフィヤで同樣ルーズベルト大統領攻擊演說をおこなつた

頑張る泰國政府 再び失地回復要求

タイ人抑留にも非難

【ニューヨーク十八日同盟】バンコツク來電によればタイ國政府は十八日フランスに對して、再びカンボジヤ、ラオス地區を含む失地回復要求を行つた旨發表した、一方同國宣傳當局は佛印側が商用で佛印に赴いたタイ人を抑留し、またメコン河航行のフランス汽船が佛印在住タイ人の乘船を拒絕してゐる事實を擧げて強硬にこれを非難した

現狀維持策をすて 旗旆を鮮明にせよ

蘭印紙、政府に要望

【バタビア東日特電十九日同盟】日獨伊同盟締結以來蘭印新聞の論調は日增しに強硬となつてゐるが、當地半官紙は十四日の社說で

蘭印政府は現狀維持策をすて英米側と提携して旗旆を明かにすべきである と說き日本が東亞共榮圈における蘭印の地位に關して態度を明かにせざる限り、蘭印は現在の商議を續行することは不可能である、十六日に至つて日本代表から得た返答はわれ〳〵の滿足するものであつた、かくて東亞共榮圈の最も重要な問題が解決したのは喜ぶべきことである と論じた

ルマニア駐希臘大使に召還命令

【ブカレスト十八日同盟】ルーマニア政府は十八日ギリシヤ駐劄ジュバラ大使を召還した旨發表した、召還理由は發表されないが、バルカン情勢緊迫の折からルーマニアのこの措置は非常に注目されてゐる

盟邦の各代表 和やかな親善風景

豪華・大阪で厚生大會開く

【大阪十九日同盟】盟邦獨伊をはじめ滿洲國支那その他の代表者を集めて四日間にわたり多彩な行事を繰りひろげた興亞厚生大會は豫定のプログラムを終つて十九日閉會式を擧行した、これに先立ち午前九時から中央公會堂で總會が開かれ各分科會の結果報告があり、次いで大會決議を可決次回は第四回日本厚生大會として東京に會催することに決定して總會を終了、閉會式に移り聖壽の萬歲を奉唱して同十一時大會を終了した、なほこの日午後二時から大會棹尾を飾る市民厚生大行進が擧行され、八千の若人がブラスバンドを先頭に市內を練つてたくましき興亞調を奏でた

大會行事の壓卷 「國際厚生の夕」

寶塚劇場に四千の觀衆

【大阪十九日同盟】興亞厚生大會行事の壓卷は「國際厚生の夕」で十八日午後六時から寶塚大劇場で華々しく開催された、この日の來會者はオツトー獨大使以下獨人三百五十人をはじめ大會派遣獨伊兩代表ほか歐亞樞軸の關係各國人一千名に、大會參加一般來會者を合せて四千名收容の寶塚大劇場を埋め盡し力强くも和やかな親善風景を繰り擴げた、開會式に引續きまづ日本代表大阪市音樂隊の吹奏樂を、舊友はじめ中華代表中華從善會員約廿名が時代史劇〝北雪山〟を演ずれば、イタリアのジヤコモ女史の獨唱アイダほか二曲ですつかり聽衆を魅了する、次いでドイツ代表出演の音樂芝居〝田園風景〟比島、蘭印、ビルマ、印度各代表の獨唱ならびに合唱、タイ國代表の笛の合奏、中華民國代表の詩歌など、それ〴〵御國自慢の鄕土藝術が上演され、絢爛たる一大國際交驩風景を現出して午後九時半終了した

東西南北

ビショ論議が近頃さかんに行はれたる、勿論ビショがよいなどいふ者はない▼內々血道をあげてる名士連が口を拭つてビショは在留民の癌だなどぬけ〳〵と御託宜▼ビショが惡いぐらい重々承知でやめられぬ、人間のあさましさだが、同時に人間の面白いところだ▼結局百のお說教千のお談議より、各自がその弊害を熟知してこれを適度にするよう心掛けるのが一番だ▼大體日本人は酒でも賭け事でも節度を知らぬ人種だ、それで身を亡ぼす、何でも樂しみの程度に輕くやればさしたる弊害はない筈▼この無節制な國民性があるからこそ、日本では賭け事は一切ご法度例の一万圓報國債券だとて富籤類似だと道學者が沸騰した▼ロテリヤに比べたらそれこそおかしくてといつた代物が問題になる▼ケチ臭い話だが、これも賭け事となるとテもなく綻れる日本人の辯を恐れての老婆心から出てる▼歐米人は家庭で銀子が食後のポーカーに金を張る、日本人も賭け事にもつと洗練されねばならぬ▲どこまでも娛樂の氣持ちで行けば、多少の賭博心は人生に潤ひすら與へる▼日本人がハメをはずしたらどういふことになるか、在支邦人の例でも充分だが、海外に出た者なら痛いほど知つてゐよう▼本國では余り抑壓され過ぎたウップンが野放しにされる故かも知れないが、勿論賞めた話ではない▼國策から來る統制や禁令は仕方がないが、余り過ぎて、あれこれ重箱の隅をほじくるようなことは考へ物であらう

日土通商協定 本腰で改訂交渉

駐佛齋田商務官も應援

【イスタンブール十八日同盟】來る十一月六日をもつて期限滿了する日・トルコ通商協定は豫てよりトルコ側の申出で改訂交渉中のところ、日本側の提案も到着し十八日には駐佛齋田商務官も應援のため來土したので、近日中に本格的交渉が開始される筈である

ピブン首相出馬 國境現地を視察

【バンコツク十九日同盟】ルアン・ピブン首相は近く東北國境方面視察に赴くことゝなつたが、同首相は北部國境において佛印側と對峙中のタイ國軍隊を檢閱するとゝもに國境全線にわたつて視察する模樣で、タイ國の對佛印領土返還要求問題は首相今回の現地視察によつて一轉期をもたらすものとして注目される

至急募集
一、アレンダ又は歩合作
一、二家族
日本人
棉作其他向七アルケーレス半支度濟
場所、マリ、アより十三キロ
元九北植民地內十アルケーレス
ドツトル・代理 三浦勇 マリ、ア市

YAMASHITA LINE
山下汽船株式會社
定期往航　極東——紐育——南米　定期復航　南米——羅府——極東
太平洋岸、フイリピン行荷物輸送引受申候
使用船壹萬噸型新造優秀貨物船
山里丸　山風丸　山月丸
山霧丸　山浦丸　山彥丸
詳細は下記弊社代理店に御問合該下度候
貨物船に付き旅客運送は乍勝手御斷申上候
サントス市　JOHNSON LINE AGENCIES
Praça da Republica, 22 Phones. 4694 e 5107 = Santos
聖市　L. FIGUEIREDO & CIA.
Rua Libero Badaró, 92 = Phone 3-2352 = São Paulo

R. Monteiro & Cia
CASA MATRIZ E ESCRITORIO
Rua 25 de Março, 533
Caixa Postal, 1646 - Telephone, 2-4388 - São Paulo
Casas Filiais:
Rua José Bonifacio, 43 Esq. Bocayuva Telephone 2-5510
Rua 15 de Novembro, 12-18 Telephone 2-1781
Avenida Rangel Pestana, 1475 Telephone 2-9837
IMPERIAL CASIMIRA MARCA REGISTRADA
Casas Filiais:
Rua Boa Vista, 199 Telephone 2-3688
Santos Rua Gen. Camara, 79 Telephone 5657
Rio de Janeiro Rua Uruguayana, 106 Telephone 23-5067
◆弊店は伯國最大の反物店で內外優秀のカジミーラを豐富に仕入れて居ります
◆尙歐洲よりブリン、廂、バームビーチ、トロピカル等本年夏向きとして種々多量に仕入れました
◆アズールマリニヨのタルジア地一米十八ミル以上
◆弊店は國產優秀カジミーライムペリアルの總代理店
◆地方より御出聖の折は是非御來店の程を
◆尙地方へは見本をお送り致します

讓バザール
ミナス州ベーロ・オリゾンテ市の手前ジュイズ・デ・フオラ市にて
唯一の邦人商店、目下盛業中、整理の爲格安に讓度し
御照會は
聖市カーザ・ナカヤ太田氏
に又は直接左記へ
浦田時雄
R. Marechal Deodoro, 61 Juiz de Fora - Minas

電話 7-7777
ブロント・ソコーロ
サンタ・イネス
一般醫務、應急外科手術、酸素管炭素ガス、X光線、輸血
…急救自動車…

齒科
コンデ・ド・ピニヤール一三五
ラボラトリオ・デンタリオ 山岡

赤星
聖市コンデ・デ・サルゼーダス街五七
電話二・八三三四
大工、指物請負裁縫教授仕立

Restaurante Caverna Paulista
R. Libero Badaró, 39 Tel. 3-2978 - S. Paulo
各種內外飲料物
宴會、婚禮には特別サービス
家族揃つて御來店の程を
晝食 夕食
七軒

電氣器具一式並ニ修理取付ケ
聖市イルマン・シンプリシアナ街一四二番
松岡電氣器具店

雜誌週間記念號 十月號
グンキ
◆修養の父！ 慰安の母！◆
航空日記念讀物
歐洲大戰と飛行機を語る座談會
英獨空中戰は何れが優るか、軍艦高射砲、落下傘戰術等々
國防國家とはどんな國家か＝附、新體制の基礎となる。
陸軍情報部 鈴木少佐
世界の寶庫蘭印を語る
日本南の生命線「蘭印」の資源と現狀を語る
石原廣一郎 朝鮮總督 南 朝鮮總督
▼朝鮮も一生懸命だ……南 朝鮮總督
▼今度の國勢調査の話……綱永與一郎
▼現代名士五分間傳記（富田健治氏 菅禮之助氏）
◆雜誌週間記念號十月號近日堂々入荷◆
◎橫田文部大臣縱橫談 文教の新體制を語る
「宣撫秘話」少年趙金保の輝
大地の朝 諏訪三郎 苦心の大作
様々な自由主義的、個人主義的迫害の中に「農業經營」の革新と理想の「農村建設」を目指して立つた熱情の青年の苦鬪史——
時代小說 神崎與五郎 海音寺潮五郎
現代小說 故里の鐘 竹田敏彥
時代小說 國難 加藤武雄
軍國美談 さらば戰線 吉野夫二郎
日本雜誌社 聖市郵便函三七五

Dr. H. Fenicio
Av. S. João 536-6 and. Tel. 4-1183
淋病 如何なる淋病も五日で完全治癒
北米式ゲタリング法（洗滌注射を用ひず）
康價

グスリ日本藥局
聖市コンセリエイロ・フルタード街十五番
電話 三—二三五一

女性の健康と云ふもの
女の身體が子宮や卵巢を中心にして、健康を支配してゐると云ふことはホルモン學說が立證してゐます。まことの女性の性慾を確保するため、中將湯を召上ると血液が淨化され血行がよくなり、全身細胞の賦活が行はれ、ホルモン活動が根底から旺盛になつて、抗病力が强化され、體質が改善されて、婦人諸病を忘れた健康體になります。
中將湯の成分は、胡麻を蒸して金華に血管をつたつて行き、胡麻はすつかり蒸されて、ほとんどなくなつてゐる。胡麻の働きが、胡麻の香りが、胡麻の味が、胡麻の色が、胡麻の形が、胡麻の音が、胡麻の匂ひが、胡麻の氣が、胡麻の力が、胡麻の心が、胡麻の魂が、胡麻の命が、胡麻の生が、胡麻の死が、胡麻の愛が、胡麻の戀が、胡麻の夢が、胡麻の詩が、胡麻の畫が、胡麻の音樂が、胡麻の舞踊が、胡麻の演劇が、胡麻の映畫が、胡麻の寫眞が、胡麻の繪畫が、胡麻の彫刻が、胡麻の建築が、胡麻の文學が、胡麻の哲學が、胡麻の宗教が、胡麻の道德が、胡麻の法律が、胡麻の政治が、胡麻の經濟が、胡麻の社會が、胡麻の人生が、胡麻の宇宙が、胡麻の神が、胡麻の佛

果てなき「船腹難」
音をあげる棉花商
商賣もチヨイと一服の態

波紋益々深刻

船腹難いよ〳〵深刻化！第二次歐洲大戰勃發以來、南米大陸は三千糎の積込みにも血眼の船舶を繰げて船腹難に襲はれたが、大戰の長期化は船腹不足より船腹飢饉へと拍車をかけ繪出商はおしなべて頭痛鉢卷の態である、大阪商船と山下汽船に依存するほか術のない在伯棉花商など僅か二、三の積荷が多く伯棉の割り込む際はます〳〵挾められるばかりで、この調子じや商賣も積極的には出來ず今のところ棉屋もちよいと一ぶくといふ有様だ、日本としても棉花はいくらでも欲しいには欲しいのだが、不急品であるためどうしても後廻しとなる譯である

積荷が多く伯棉の割り込む際はます〳〵挾められるばかりで、この調子じや商賣も積極的には出來ず今のところ棉屋もちよいと一ぶくといふ有様だ、日本としても棉花はいくらでも欲しいには欲しいのだが、不急品であるためどうしても後廻しとなる譯である

船腹難は日を逐つて激化してゐるのに加ふ最近はアルゼンチンから羊毛その他の

春に背き終止符（二題）

苦しいお台所 共濟會解散へ
十八日の臨時總會で決る

五年前補助金を基礎として設立され財政の豊かでない人々から便利がられて居た聖市日本人共濟會では最近經濟的に窮迫して來た上に、新法令下には到底今後の經營困難となつたゝめ方向轉換が叫ばれてゐたが、去る十八日午後七時より日本倶樂部で臨時總會を開催協議した結果、解散する事に決定した

なほ同會では財産整理しサンタ・カーザ、日本病院等に寄附する意向であると

廿餘年の歴史も淋しく
けふ大戸を下ろす

道具類は互生會の地下室で冬眠生活へ

創立以來二十餘年聖邦人にとつて各種の集會に利用されて來た日本倶樂部も二十數コントの赤字の重荷に堪へかねけふ二十日限りで淋しく大戸を下ろし一ケ年間休業する事となつたが、もう撞球台も片づけられ、道具一切は互生會の地下室に運ばれ冬眠暮らしをする事となつた

閉鎖前の前日十九日は倶樂部食堂の定連四、五名が春に背いて終止符を打つ倶樂部のため最後の晩餐ならぬアルモツサをしたためてゐた

面目一新
その後のカンポス
ジョルドン療養所

既報、夜更しで麻雀はやる、屋の様な紊亂を極めてゐた同ビツショ屋は出入するで下宿、仁會經營カンポス・ド・ジョルドン肺療養所はその後村井監督委員長隅田總領事に決定した義田さんより他には無く、總領事館では任披露を兼ね日本佛印交驩の晩餐會を開いてゐるが、日本側出席者の中に義田總領事の名があり、外務省が來任されるものとすれば相當遅れるものと思はれる云々と語つてゐる

報恩講

來る二十七日午後一時より聖市イピランガ區岡田英定氏宅で今年の報恩講が行はれる、講師は伊藤助市氏外一名で當日は祖師上人の御影をかゝげ翌二十八日には午後十一時まで御通夜の氣分にひたりつゝ御傳鈔の奉讀、講話等を聽聞する由

聖市に赴任の筈の
簑田さん佛印で活躍！
當地には來るのか來ないのか？

十八日の同盟電報によると佛印監視委員長隅田少將が佛印側約十五名を招待新任披露を兼ね日本佛印交驩の晩餐會を開いてゐたものと思ふが、當地には來り今日では療養所本來の姿に立ちかへり面目を一新して居る、なほ現在の收容患者數は計五六名で空床數は男子病室十一、女病室九、合計二〇男子三四名、女子二二名、合

十八日の同盟電報によると佛印監視委員長隅田少將が佛印側約十五名を招待新任披露を兼ね日本佛印交驩の晩餐會を開いてゐたものと思ふが、當地には來るか來ないのかその後の公電がないので、サツパリ判らぬ庶務部と各部が綴潟するので組合員の家族連は當夜を待ちこがれてゐる

長期滞在！外意はれこ

□…旱魃のひどかつた北パラナ地方も十一日には"空の給水部隊"が訪れクツブリ潤はして呉れたので蒔付けに大童であつたが、また日照りつゞきにこれでは折角蒔いた種まで無駄になりそうだと心配空を睨んでる

□…三菱聖市註在員の辻さん、來伯早々東奔西走奮闘これ努めたのがたゝつてとう〳〵神經衰弱になり、目下インスチチユート・パウリスタで靜養中である、一方心ひそかに氣にしてゐた顔の吹出物も診察てもらつたら決してシシ食つた報ひではないと判つて一安心

□…今年は棉や珈琲では損したといふ話の方が多いが、ノロ線の藤原といふ御仁、珈琲、棉で儲けたお金が一千コント也、先づ土地を買へとグワラペス奥に一千域をポンと現ナマ出して購入したとの噂

□…ブラ拓さんでは移住地公共團體の幹部諸君が多年移住地自治のために盡したといふので來る二十六百年祝典に當り感謝狀を宮坂國人氏の名で進呈すると

□…ビリグキ驛ビラツキ町で乘合自動車とバザールをやつてゐる有名な吉井彦一老(六二)は去る八日グワラペス在より五十七歳の茶飲み友達を迎へ內輪だけで式を擧げその後大いに若返へてゐるデス

□…ジゼ・ポニフアシオ二三番地のシリヤ人の店でウヤスキー、シヤンパンから罐詰類等の大量ストツクの安價提供をやつてゐるが奥地の日本人諸氏からもドシ〳〵注文していたゞきたいと

豆自動車の進出
先づサービス工場を設置？

既報、ダツトサンや豊田襲などの輕自動車のブラジル進出が傳へられてゐるが、貿易局は輕自動車輸出はサービスの點に萬全の策を講ぜねばならぬので宮田製作所はじめ當業者に輸出計畫を立案せしめてゐる、なほ現在の收容患者數は

生花展覽會を
執政官夫人參觀

既報、鈴木菊枝氏が主催する池ノ坊橘會では昨十九日よりマルケス・イツー街一八一番で近く勉學に歸國する同氏の壯行生花展覽會を開いてゐるが、けふ二十日午前十時半執政官夫人が參觀に來場する

メタンガスの惡戯
便所內で大火傷！

これはまたメタンガスの惡戯から起きた珍事—ノロエステ線ビリグキ驛ビラツキ町某邦人パールのお神さんが四、五日前の夜、便所に行き暗いのでマツチをすつたところ、便由

をり、海外市場における現地の業者と充分の連絡をとりサービス部分品に萬全を盡すとともに市場により積極的に現地にサービス工場の設置等を行ふことゝなりブラジルにも設置される模様である

所內に鬱積してゐたメタンガスに引火しお神さんは下腹部に火傷を負つた

國民皆苦
汎濫する「洋服に下駄」
メシは外米に麥
コーヒーも大豆で代用

昭和九年單身渡伯、その後パウリスタ線テーラ・ロツシヤ驛クルゼーロ耕地で棉作に從事してゐた平林大八(三五)君は去る六月のブエノス丸で歸國したが、この程次の

た、歸國者の目に映じた「戰時下日本の一樣相」として興味深いものがある

（前略）まる六年振りで見る東京も思つたほど變つてゐませんでしたが、物資の統制で相當戰時的な氣分を味ひ得ます、然したゞ通行人的な見方からでしたら決して戰爭してゐるやうなとこやうな戰時下日本便りを寄せろなど嗅へません、それでも夜は十時まで開店出來ても「あれは賣切れ、これは品切れ」と相當戰時色横溢し、外燈なども二本有つたところは一本に或ひは以前の三分の一にといふ工合に制限され

街々から暗くなつた（銀座などネオンサイン全廢でとても暗い）

やはり戰時といふ感じを與へられます、物價も相當高騰し物によつては二倍にも三倍にもなつたが、漸くこの頃公定價格が決定されて無茶な價格は見られません節米のため外米に麥には少閉口しますが時が時ですから默つて忍ぶべきでせう樽の如何なる飲食店も一定の時間以外は食事も出さぬ規則になつてゐます、その食事も外米に麥です、米棉類は殆んど有りません、酒も制限付きでこれも余手に入りません、これ等のことは上下を問はず「國民皆苦」です、公定價格違犯者（闇相場）は極刑に付されてゐます、經濟警察が活潑に活動して暴利を占むる者の有無を嚴として監視してゐます

歸國者の見た戰時下日本

大豆の眞つ黑に炒つたものをコーヒーとして飲めます、總てブラジルから歸つた自分には一寸飲めません、總て代用品時代です

日本に歸つて一寸奇異に感じたことは電車の中でも街路でもノーネクタイ、或ひは洋服に下駄、或ひはユカタ姿の汎濫でしたが、これは窮屈な思ひをしないで樂に出來て良いと思ひました職業婦人の多くなつたことも想像以上でした

それから神社佛閣の前で頭を下げる習慣に嬉しさを感じました、六年前にもそうだつたが今のやうに總ての人に實行されてた譯ではなかつたのに現在では電車の中でも歩いてゐても神社佛閣の前では必ず頭を下げて行きます、宮城は勿論です良いことだと思ひました、

美しい行ひです

召集はどし〳〵行はれてゐます、毎々のやうにあちらの驛こちらの驛から少數づつ出征して行きます、內地へ歸つて

傷病兵に逢

ふ時、戰爭の如何に悲慘であり、それを百も承知して行かねばならぬ民族的宿命の絶對性にいひ知れぬ感慨を味ひました、自分も歸國後直ちに檢査を受け見事「甲種合格」でした、この十二月か一月には入營です、檢査にも合格しよう〳〵自分も日本人として戰地へ臨むのだと思ふ時、そこには何んともいへぬものが胸一杯に湧き上つて來て、クソ！やるぞ！と思はず拳を握る自分です（後略）

……●……

國民皆苦

歸國者の見た戰時下日本

市況

（十九日）

	安値	高値
▼アロース上	六六、〇〇〇	六六、〇〇〇
▼グーリヤ上	五六、〇〇〇	五六、〇〇〇
▼ブランコ〃	四七、〇〇〇	四七、〇〇〇
▼カチテ〃	四七、〇〇〇	四七、〇〇〇
▼エイジョン〃	三二、〇〇〇	三二、〇〇〇
▼ムラチーニヨ上	三二、〇〇〇	三二、〇〇〇
中	六六、〇〇〇	六六、〇〇〇
▼ミーリヨ	—	—
アマリーニヨ	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
アマレロン	一九、一〇〇	一九、一〇〇
クリスタル	—	—
▼バタタ	—	—
アマレーラ上	三二、〇〇〇	三四、〇〇〇
ブランコ中	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇
▼マンヂカ粉	六〇〇	六一〇
▼マモナ	三、四〇〇	三、一〇〇
▼棉實	一七、四〇〇	一八、〇〇〇
▼アメイン上	三五、〇〇〇	三七、〇〇〇
▼セボーラ〃	—	—
▼砂糖	三二、〇〇〇	三三、〇〇〇
レライナード特上	六六、〇〇〇	六六、〇〇〇
フイルハード上	六二、〇〇〇	六二、〇〇〇
▼小麥粉	五三、〇〇〇	五四、〇〇〇
▼珈琲	—	—
▼棉花	四一、五〇〇	四二、五〇〇

國民皆苦

汎濫する「洋服に下駄」
メシは外米に麥
コーヒーも大豆で代用

歸國者の見た戰時下日本

日本倶樂部

面目一新

聖市に赴任の筈の簑田さん佛印で活躍！

豆自動車の進出

生花展覽會を執政官夫人參觀

メタンガスの惡戯

春に背き終止符（二題）

空へ伸びよ！翼週間

コチヤ産組で家族慰安演藝會

炊事人入用
男女を問はず多少經驗ある方至急求む
ルア・コンソラソン二〇四九
カーザ・モトム
電話七—七二二七

HEMORROIDAS ?
Só pilulas de herva de bicho compostas imescard
痔疾及びそれから神經大腦、肝臟、胃腸、腎臟の障害によく便通を明晰にし痙攣を防ぐ

Dr. C. de Almeida
Av. S. João, 586 7°. a. Tel. 4-5327 S. Paulo
眼科 耳鼻咽喉科 診療保證付
日本人患者歓迎
診療時間 午后2時より時迄6

Mario Penna
Matriz : Rua Mercurio, 33
Filial : Av. Brig. Luiz Antonio, 1615
公認 自動車學校
自動自轉車、尚ほ婦人方へは特別教授
日本人卒業生を多數出して居ます
（聖市中央市場横）

殺虫劑 ムシコロン
サントス税關鑑賞の日本製殺虫劑一組半價で賣りたし
Parque D. Pedro II, 99
Tel. 2-8862 - S. Paulo

RADIO 販賣 修繕、改良、組立
フイリップス エネラル エレクトリコ
アニク・ガリバルディ二一四
技術者（元のブラ拓）仲原善雄

急募
一、職人 二、三名
煎餅焼に經驗ある者
パ延長線キンターナ驛
ビラカンバンテ町
吉田製菓店

讓店
聖市グローリア街三五二
電話 二一六八四六
盛業中の雜貨店
家庭の事情の爲め好條件にて譲り度し
詳細は左記へ
Rua Barra Funda 485

齒科
淺倉
聖市コンデ・ド・ピニアル八六

豆腐の御用は
電話 二一六六三〇
聖市コンデ・ド・ピニアル八六
小田豆腐店

Ao ESPORTE BRASILENSE
木村稜威雄
ITSUO KIMURA
Caixa Postal, 203 - Lins
E.O.B. - Est. S. Paulo
野球用具
陸上競技用具
其他一般運動具
服裝、旗、メタル調製

讓旅館
歸國の都合に依り目下聖市日本人街に於て盛業中の旅館格安にて至急譲渡し度し
姓名在社

GIZ BRASIL
Escriptorio : Rua da Quitanda, 76 5.° and. Tel. 2-2539 C. P. 3223
外國製に優る國産白墨
學校、撞球場、洋服店
で歓迎されて居ります

Casa Rambaldi
本店 Rua Liberdade, 472 - Tel. 2-1424
支店 A Italo-Brasileira Quint. Bocayuva 238 Tel. 2-7091
家具及絨氈
御支拂には御便宜をはかります

O MESTRE DOS TONICOS APERITIVO DE TODOS OS TEMPOS
FERRO CALCIO QUINA TRENTINI
Fone, 103 - S. Caetano - Est. de S. PAULO - BRASIL
四季を通じて榮養劑の王、最高級食慾促進劑
規那鐵、カルシユーム（トレンチーニ製劑）
サンパウロ・レイルウエイ線サンカエタノ驛 電話103

Cine Santa Helena
今日の映画 - Praça da Se -
HOMENS SEM ALMA
バートン・マツクレイン主演
コロムビア映畫14才以下入場禁止
Ufa Jornal, 470 Luce Jornal, 117
最も新しい大戰ニユース
午后一時五十分より連續上映
畫2$000, 1$000, 夜2$500, 1$500

Emporio Syrio
R. José Bonifacio, 23
São Paulo
酒、果物、罐詰
安價提供
◇ウイスキー、葡萄酒、シヤンペン、ヂン、リキユー酒
◇上等マンテイガ（附屬工場製レコルド印）
◇其他各種食料品在庫豊富
◇日本人顧客多く
奥地向け御注文に應じます

電話交換嬢募集
一、伯國生れにて日伯兩語を解する者
二、年齢十六歳より廿五歳迄
三、無經驗者にても可
右希望者は午前八時より十一時迄の間に本人直接御來談ありたし
十月二十日
コチア産業組合 庶務部

ZITRIN IRMÃOS
Rua Buenos Aires, 110-112
Rio de Janeiro
お土産品には伯國特産珍品を
ブラジル特産各種寶石、木細工、蝶翅細工、鰐、蜥蜴、蛇皮等弊店で作製、研磨致します
尚三井物産と協定の上日本人諸賢へは特に廉價で提供致して居ります
ジトリン・イルモンス
リオ市花市場前

CASA REGINA LTDA.
Rua São Bento, 28 - Fone, 3-1567
São Paulo
開店一週年記念
特價大賣出し
カミーザ、ネクタイ、靴下
其他紳士向用品
全品特價提供是非御來店を
ジゼ・ポニフアシオ街の近く サン・ベント通りです

御通知
今般聖市日本人共濟會は拾八日臨時總會を以て即時解散致し候に付き此の段御通知申上候
昭和拾五年拾月拾九日
元聖市日本人共濟會
會員殿

Redacção e Administração:
Rua Maestro Cardim, 1109
Teleph.: 7-3325 e 7-3326 - Cx. Postal 375
SÃO PAULO-BRASIL

BRASIL ASAHI
EX-NIPPAK SHIMBUN

DIRECTOR: *José Yamashiro*

ASSIGNATURAS:
PARA O BRASIL { Anno . . . . 60$000 / Semestre . 30$000
PARA O EXTERIOR - Anno . . . 120$000
ANNUNCIOS — Temos á disposição dos interessados uma tabella completa de preços para annuncios nesta folha

Anno I | São Paulo — Domingo, 20 de Outubro de 1940 | Num. 75

NOTAS E EDITORIAES

O sr. dr. Adhemar de Barros, Interventor Federal, visitou, ante-hontem o Departamento de Zoologia, da Secretaria da Agricultura, acompanhado do sr. secretario da Agricultura e outras altas autoridades.

***

A exma. sra. d. Leonor Mendes de Barros, esposa do sr. Interventor Federal, visitará hoje, ás 11 horas, a exposição de flôres ("ikebana"), da sra. Kikue Suzuki, hontem inaugurada na séde da Associação Civica Feminina, á rua Marquez de Itú, 181.

***

Realizou-se ante-hontem, ás 21 horas, no salão nobre da Faculdade de Philosophia, Sciencias e Lettras da Universidade de São Paulo, a palestra do dr. Guilherme de Almeida sobre a poesia japoneza, especialmente sobre o "haikai".

Essa reunião foi a primeira promovida pela Sociedade de Intercambio Cultural recentemente fundada por professores e alumnos daquella Faculdade e, constituiu tambem sua sessão inaugural.

Tomaram logar á mesa, além do illustre escriptor, o dr. Shiguetsuna Furuya, presidente de honra da S. I. C., o sr. Geraldo Brandão, presidente, a senhorita Daysi Brescia, vice-presidente e sr. José Tancredi, secretario.

***

A Sociedade de Intercambio Cultural, recentemente fundada nesta capital elegeu para a sua primeira Directoria os seguintes membros:

Presidentes Honorarios: dr. Alfredo Ellis Junior, director da Faculdade de Philosophia Sciencias e Lettras, da Universidade de São Paulo; dr. Shiguet una Furuya, ex-ministro plenipotenciario do Japão na Argentina e conselheiro do Gremio Cultural Brasileiro Nipponico de São Paulo; Presidente, sr. Geraldo Brandão; Vice-presidente, senhorita Daysi Brescia; 1.° Secretario, sr. José Tancredi; 2.° Secretario, senhorita Toyoko Ohno; Thesoureiro, sr. Lindo Fava; Orador, sr. José Lourenço de Bibliothecario, sr. Geraldo A. Vidal.

***

A Liga Estudantina de São Paulo fará realizar uma festa litter.-musical, no proximo dia 24, ás 20 horas, no salão do Club Lyra, sito á rua São Joaquim, 392.

A dissolução do Centro de Mobilização do Espirito Nacional

As declarações do conde Arima e sr. Tomita

Tokyo, 16 (D.) — Tendo alcançado plenamente a sua finalidade, foi dissolvido hoje o Centro de Mobilização Geral do Espirito Nacional. Sobre essa dissolução foram publicadas varias declarações, dentre as quaes destacam-se as duas seguintes, feitas pelo sr. Tomita secretario geral do Gabinete e sr. sr. Arima, chefe da Assembléa Nacional Pró-Politica Imperial:

Declarações do sr. Tomita: — "O Centro de Mobilização Geral do Espirito Nacional, que foi dissolvido na presente data teve um dos papeis mais salientes no controlle da orientação do povo japonez desde o advento do actual conflicto da China. Si este Centro que tão relevantes serviços prestou á Patria num dos periodos mais criticos de sua historia desapparece é porque fundou-se no Imperio a Assembléa Nacional Pró-Politica Imperial".

O conde Arima, declarou: "O Centro de Mobilização do Espirito Nacional fica dissolvido com a creação da nova ordem no Imperio. Este movimento que acaba de cumprir satisfactoriamente a missão que lhe foi attribuida, contribuiu efficazmente no sentido de elevar e animar o espirito nacional neste momento historico que atravessa a Nação. Com a aggravação das relações internacionaes, o trabalho que foi desenvolvido pelo movimento que agora desapparece, deve ser continuado para solidificar cada vez mais a comprehensão do povo no que concerne aos seus deveres de cidadãos. Só assim, o Japão, com a instituição do novo regime, poderá alcançar as suas finalidades, implantando no Extremo Oriente uma nova ordem de coisas assegurando a paz solida e duradoura para a commum prosperidade. Com a concentração de todas as actividades, a Nação toda, unida num só espirito, deverá cooperar com o governo na execução cabal dos seus grandes planos.

O movimento Nacional Pró-Politica Imperial é de caracter profundamente espiritual, devendo por isso desenvolver os seus trabalhos no sentido de unificar e solidificar cada vez mais o espirito nacional, para preparal-o a transpôr todos os obstaculos que certamente surgirão".

Fabricas transferidas para administração chineza

Cantão, 16 (D.) — Quatro das dez fabricas que estiveram sob a administração nipponica depois da occupação desta cidade, foram transferidas ao novo governo municipal. No accordo entabolado entre a commissão nipponica e a municipalidade de Cantão, foi resolvido a transferencia, para a administração chineza, das fabricas textis algodoeiras, de acido sulphurico e de soda caustica. Quanto á fabrica de papel, segundo declarou o sr. Chen Yaotsu, chefe do governo provincial de Cantão, por iniciativa nipponica a sua transferencia está sendo aguardada para breve.

O referido chefe provincial demonstrou grande satisfacção pela politica de boa vizinhança, amplamente concretizada pelos japonezes no campo de cooperação economica, e prestou homenagem, não só ao espirito de sacrificios com o qual as firmas nipponicas administraram taes fabricas, mas, tambem, pelo emprego de grandes capitaes por ellas feito para a efficiencia das suas producções.

"MADAME BUTTERFLY" será filmada no Japão

Tokyo, Setembro — Madame Tamaki Miura, a "Cô-chô-san" original da opera americana, dirigirá um filme baseado na historia de "Madame Butterfly", conhecida no mundo atravez a opera de Puccini. A filmagem será levada a effeito nos "Asahi Studios".

O "Tiho Studio" filmará uma outra producção com aquella actriz mandchu, Li Hsiang-lang, que é actualmente a sensação do mundo cinematographico japonez. A sua proxima producção será "Chin no Yoru" ("Noite na China").

1 milhão e 300 mil koku de augmento na producção de trigo

Tokyo, 9 (D.) — O ministerio da Agricultura deu a publicidade uma estatistica de estimativa da colheita de varios cereaes produzidos em todo o paiz, com excepção porém, de Hokkaido.

Segundo essa estimativa podemos ver que a producção do trigo no corrente anno será de 12.823.000 koku (o koku equivale a 180,4 litros); a de cevada, 7.496.000 koku e centeio, 6.149.000 koku.

Fazendo um confronto com a producção do anno anterior vêse que com referencia ao trigo haverá um augmento de 9%. Quanto á cevada e ao centeio, nota-se uma diminuição de 3,1% e 7,2% respectivamente. O graphico da colheita desses productos nos ultimos cinco annos mostra um augmento de 33,1% no trigo, 8,8% na cevada e 8,8% no centeio.

A producção a mais do trigo no corrente anno está calculada em 1.800.000 koku.

Retirada de subditos norte-americanos de MANDCHUKUO

Mukden, 16 (D.) — Recebeu ordem especial de se retirarem do Mandchukuo, partiram hontem a tarde, rumo Shanghai via Tairen, varios menores e mulheres americanos.

Segundo consta, esses subditos "yankees" abandonaram o Extremo Oriente receiando a aggravação das relações americano-asiaticas.

Pekin, 16 (D.) — De accordo com as instrucções recebidas do seu governo, cerca de 350 mulheres e creanças norte-americanas estão se preparando para deixar esta cidade ainda no fim do corrente mez.

Impressos?

Procure a typographia

NIPPAK-SHA

C. P. 375 — Teleph. 7-3325

As actividades das forças imperiaes na China

TOKYO, 16 (D.) — A offensiva geral nipponica, desencadeada na frente de Anhwei e Chekiang, numa extensão de 300 kilometros, attingiu o seu ponto culminante com o encurralamento de vinte divisões do exercito chinez, obrigando-as a baterem em retirada.

Segundo se calcula, os chinezes abandonaram quatro mil mortos.

Segundo o mesmo calculo, quando a offensiva attingiu a phase de mais intensa aggressividade, os chinezes abandonaram quatro mil mortos no campo de batalha. Calcula-se ainda, que vinte guarnições chinezas foram destruidas ou capturadas, desde o dia 3 do corrente, inicio das operações militares nipponicas nas proximidades de Wuhu, a oeste do rio Yangtzé e nas cercanias de Hongkholm, ao longo do rio Chientang.

50 mil soldados chinezes cercados

SHANGHAI, 16 — O porta-voz militar nipponico, falando, hoje, a respeito da offensiva japoneza, salientou que a mesma prosegue com exito em determinados pontos da China Central. As tropas nipponicas conseguiram cercar mais de 50.000 soldados chinezes, inclusive contingentes de guerrilhas ao sul do lago Taihu, a uns 160 kilometros a oeste de Shanghai. As operações nipponicas nas provincias de Kingse obrigaram os chinezes a retroceder, com um exercito approximado de 60.000 homens.

O porta-voz affirmou que as tropas nipponicas perseguem os contingentes chinezes extremistas, fortificados nas montanhas de Tatung e que attingem a uns 20.000 homens.

A hospitalidade japoneza

G. Venkatachalam

A hospitalidade hindú é proverbial, porém, mais do que isso, como a espiritualidade hindú, é um mytho. E' incrivel que communidades que pratiquem não apenas o intangivel e o inaccessivel como tambem a invisibilidade em relação á alimentação e aos banquetes, possam ser verdadeiramente hospitaleiras.

A chamada hospitalidade de principes hindús, é um apparato vulgar de riqueza e desperdicio, sem ter um toque de humanidade em si. As numerosas reuniões sociaes, recepções e festas, que depressa estão se tornando moda entre os modernos hindús educados, são precisamente attitudes sociaes que não têm outro fim senão o egoismo proprio.

No Japão, porém, a hospitalidade é real, genuina e intensamente humana. Não é uma obrigação social e não é motivada por nada. Ha nella uma simplicidade, uma naturalidade, uma graciosidade que é unica e admiravel.

Os japonezes podem dar facilmente, uma ou duas lições não só a estes como ao resto dos orientaes, mas tambem ao mundo. E' difficil imaginar uma hospedeira mais ideal que a dama japoneza culta. Ella é a representação da perfeição em suas maneiras, self-controlle, solicitude, equilibrio e paz, de tal modo que uma hospedeira tanto da India como da Europa parece um furacão de duas pernas.

Não é somente á sua prodigalidade como a sua consideração, não é apenas a natureza de sua recepção como o modo como entretem seus hospedes que são as feições marcadas de sua hospitalidade. Ella póde ser prodiga quando quer, mas mesmo assim demonstra um notavel requinte e constrangimento.

Sua hospitalidade não é meramente instinctiva, mas intelligente. Os seus instinctos educados, ensinam-na a desempenhar a funcção de dona-de-casa serenamente, com doçura e sensibilidade. Ella não encontrará difficuldades para conhecer de antemão os gostos de seus hospedes e suas idiosyncrasias e nem os surprehenderá mesmo que seja por um momento de prazer.

Si, por exemplo, o hospede fosse um amante de lotus ou de lyrio, carnação ou chrysanthemo, elle poderá estar certo de o contemplar em seu aposento, artisticamente disposto, como somente uma senhora japoneza o póde fazer, ou, si o desgosto fosse um trabalho particular de arte ou de artista, elle estará certo de ver um bom exemplar collocado num canto silencioso, para seu deleite.

Em parte nenhuma do mundo, com excepção, talvez, de algumas familias hindús do norte da India, a gente encontra mulheres realmente cultas como na Terra do Sol Nascente. A cultura, como caracter, é inata e é a unidade individual da alma. E' a florescencia da vida, a perfeição da mente, do coração e do corpo. E' uma herança.

Reconheçar

Voltar...

Não me é difficil, porque nunca fui embora e porque se interrompeu (mas não se partiu) o fio que vinha tecendo, e que ninguem,—quasi ninguem—, sabe se era de ouro, de palha ou se de simples algodão de linha.

Para consolo meu, nós sabemos que o fio é nosso e de mais ninguem e de que é que a gente precisa mais? Algumas vezes, eu poderei querer estar longe, mas, então,

Quando o céo, por sobre os telhados, fôr mais azul que o nosso sonho azul, e eu não perceber,—venha depressa para mim;

Quando eu não estiver sentindo a musica da terra, e não mais cantar como cantam as creaturas simples no encantamento das auroras, — venha avivar o meu sêr;

Quando eu não estiver maravilhado com o brilho da agua do regato silencioso, que contorna a nossa casa, com o orvalho divino sobre a erva, com a symphonia dos bailares da Natureza, — venha correndo me illuminar;

Quando eu não tiver mais sensações gostosas, nem fôr capaz de proteger a semente que germina, a planta tenra que cresce, a flôr que desabrocha, o fructo que se forma, — então, mais do que nunca, venha para mim, para que não me perca;

Quando eu ficar triste duma tristeza que vem de mim mesmo, daquella tristeza que é o consolo todo meu,—nós bem sabemos que é nosso —, de que ainda somos imperfeitos,—então pegue-me pelo braço e leve-me a andar.

***

Voltar... Não me é difficil, porque nunca fui embora. — *M.*

88 dias no Extremo Oriente

XXX — José Yamashiro

Harbin, 10-5-40.

Em Harbin é muito commum o casamento entre japonez e russa.

Durante o anno, é na epoca do Natal que se realizam mais casamentos na colonia russa desta cidade. E já houve annos em que, durante a semana do Natal, se celebraram cerca de 40 pares de casamentos entre japonezes e russas. Como as noivas, nestes casos, são catholicas orthodoxas, os noivos japonezes são baptisados e recebem nomes christãos-russos, como por exemplo Nicolai Petrovitch, Alexei Yugowitch, Sergei Stanowitch...

E ainda ha quem diga que os japonezes são refractarios á miscibilidade e assimilação...

Aliás ha quem affirme que em Harbin os japonezes esposam russas por curiosidade e as russas casam-se com japonezes por necessidade. E' possivel que haja alguma dóse de verdade nessa affirmação. Mas não creiamos que seja tão grande o numero dos que se casam por simples curiosidade...

Depois do almoço realizamos um passeio pelo Sungari a bordo de um barco-motor. O rio não parece muito fundo. Aguas barrentas. Fluctuam numerosas embarcações de typos os mais variados. Algumas canhoneiras do Mandchukuo. No Verão os harbinenses e as harbinenses vêm nadar no rio. Passeiam de barcas e de botes. No Inverno, espessa camada de gelo cobre a superficie da agua. Então os habitantes da cidade passeiam de trenó sobre o Sungari... E os russos orthodoxos celebram a festa do baptismo em pleno inverno.

Constroem um altar bem no meio do rio. Erguem uma cruz de gelo. Os fieis se reunem. A pia baptismal é formada por uma excavação feita no gelo.

A temperatura, por essa epoca (meiado de Janeiro) costuma descer a 30 graus abaixo de zero. Mas os russos, conservando uma velha tradição da mãe patria, recebem o baptismo quasi nús. Entram na pia só de maillot ou calção. Tomam parte nesta cerimonia religiosa adolescentes de 15 a 16 annos até velhos sexagenarios, de ambos os sexos.

Passamos por baixo da ponte sobre o Sungari. Esta ponte foi construida pelos russos em 1900, com o auxilio do capital francez e o trabalho sobrehumano dos "coolies" chinezes. Interessante que o material empregado na construcção da ponte foi fabricado na Varsovia (Polonia) e de lá transportado, por via ferrea, até o porto de Odessa, de onde veio até Vladiostok por via maritima. Deste ultimo porto até a estação de Imantei foi transportado por estrada de ferro e dalli até Harbin por via fluvial. Um esforço realmente ingente. E tudo isso para servir á politica expansionista do Czar...

x x x

Á tarde a Prefeitura nos offereceu um chá num dos salões do Hotel Moderno da rua Kitaiskaya. E' a rua typicamente russa, com "departament stores", lojas, bars, todos russos ou judeus, egrejas orthodoxas, synagogas e mesquitas...

O Hotel Moderno, possue além de "grill room", sala de jantar e outras dependencias necessarias a um moderno estabelecimento, uma sala de projecções cinematographicas. Estava passando um filme allemão

Trabalha Martha Eggerth. Os lettreiros são em russo e japonez. Um cosmopolitismo do outro mundo! Em Harbin muitas casas commerciaes possuem annuncios em KANJI e russo. Ha jornaes mandchús, japonezes e russos.

Pouco antes do chá houve um grande incendio, proximo a Kitaiskaya. Alguns caravanistas que foram vêl-o, não compareceram ao chá. E houve outros que se dispersaram pela cidade...

O consul geral do Japão em Harbin, sr. Kubota, offereceu-nos um banquete no Yamato Hotel. Compareceram o vice-consul e outros funccionarios do consulado, da Prefeitura e da "Mantetsu". Cavalheiro muito distincto, o sr. Kubota nos dirigiu palavras amabilissimas, offerecendo o banquete.

O nosso orador Mario de Lucca, eloquente como sempre, respondeu reaffirmando nossa sympathia e admiração pelo Japão e pelo Mandchukuo. Foi um fino jantar á occidental.

x x x

Em Harbin, como já vimos, quasi todos os russos falam o idioma nipponico. Os "chauffers" de taxi, os empregados do commercio, funccionarios da S. M. R., "girls" dos bars, restaurantes e "dancings", todos apprendem o japonez, porque é preciso... Na epoca da hegemonia russa falava-se só russo. No periodo aureo da dominação moscovita, contavam-se cerca de 80.000 russos, cerca do dobro da actual população slava desta cidade. Orgulhosos e arrogantes, os russos chegaram a levantar tabuletas discriminatorias contra os chinezes, em algumas partes da cidade! Apezar de estarem na China, prohibiam a entrada de chinezes em determinados logares! "Prohibida a entrada aos chinezes". — Contaram-nos que já houve taes avisos, em lettra de forma... O Mandchukuo, porém, trata a todos com igualdade. Não ha discriminação racial no jovem Estado. Na Proclamação da Independencia do Mandchukuo apparece o seguinte trecho:

"Não haverá discriminação concernente á raça ou crença entre o povo que vive dentro do novo Estado inclusive os Hans, Mandchús, Mongóes, Japonezes e Koreanos; nacionaes de outros paizes tambem poderão receber igual tratamento, sendo os seus direitos plenamente garantidos".

A harmonia racial constitue um dos ideaes do novo Estado. Por isso, além dos hans, mandchús, mongóes, japonezes e koreanos — os cinco povos representados na bandeira do Mandchukuo — vivem no territorio mandchú russos, judeus, e mais de dez "minorias raciaes".

Continúa